



福岡県黒木町指定有形文化財・防災型町家住宅

福岡県  
黒木町  
1881

# まちなみ交流館 旧松木家住宅

## 「まちなみ交流館 旧松木家住宅」保存修理工事の概要

- 事業名 街なみ環境整備事業（まちづくり交付金）
- 事業主体 黒木町
- 事業年度 平成17・18年度（18年度繰越）
- 構造形式 木造二階建・入母屋造葺瓦葺〔居蔵造（いぐらづくり）〕
- 延床面積 334.40㎡（1階：189.71㎡ 2階：118.80㎡ 附属屋：25.89㎡）
- 総事業費 67,776（千円）
- 総合監修 九州大学大学院芸術工学研究院歴史環境研究室
- 耐震診断 九州大学大学院芸術工学研究院建築構造研究室
- 設計監理 (株)都市環境研究所九州事務所
- 施工 (有)黒木建設
- 財源内訳 国費 30,929（千円） 起債 33,915（千円） 一財 2,932（千円）

### アクセス

- JR鹿児島本線……JR羽犬塚駅より 約18km
- 堀川バス……羽犬塚乗車、黒木下車 約60分
- 九州自動車道……八女ICより約16km 約35分  
広川ICより約16km 約35分



**まちなみ交流館 旧松木家住宅**  
 ☎834-1217 福岡県八女郡黒木町大字黒木80-2  
 TEL.0943-42-0004  
 開館 9:00~17:00 休館 月曜・年末年始

### 編集・発行

**黒木町まちおこし課**  
 ☎834-1292 福岡県八女郡黒木町大字今1314-1  
 TEL.0943-42-1112(直通) FAX.0943-42-4591  
 http://www.town.kurogi.fukuoka.jp/  
 E-mail machiokoshi@town.kurogi.lg.jp

## 「川祭」が支える地域コミュニティ

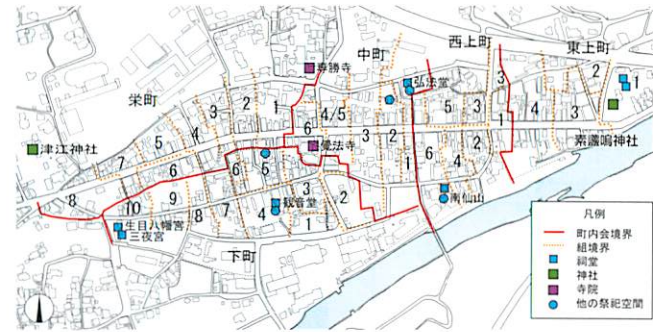
江戸時代より黒木地区には、矢部川の豊かな水の恵みに感謝する「川祭」が残され、町内会単位の34組が当番制により守り続けています。戦後、春の川祭のみに集約されましたが、共同による清掃活動で環境美化も良好です。明治13年の黒木町大火を経験して、密集する木造建築ゆえにコミュニティの結束も固く、観音講など集落単位の社交場も息づいて、緊密な地域のネットワークが築かれています。



桑原集落のお観音講



下町下之丁の祭礼簿：表紙



町及び組の範囲と祭記空間

## 安心・安全な「防災まちづくり」に向けて

平成16・17年度に文化庁の伝統的建造物群保存対策調査のアンケートで、伝統家屋に愛着をもち、住み続けたいとする意思表示が83%に達し、これからのまちづくりに反映させいくことが課題となっています。今後、安心・安全に住み継いでいくには、大規模地震や火災を想定した「防災計画」の策定が前提となり、川祭の「組」を単位とする自主防災組織の役割を担いながら、基礎的母体として「防災まちづくり」に向けた住民と行政の協働が求められています。



防災まちづくり総括図

## ■ 甦る明治の建築文化 - 防災型町家住宅の誕生 -



漆喰壁と片開きの鉄格子窓（二階）



【資料③】 摺上・跳上大戸と雨戸（一階）

### 【資料④-A】 一階概観



一階平面 (S: 1/400) ①

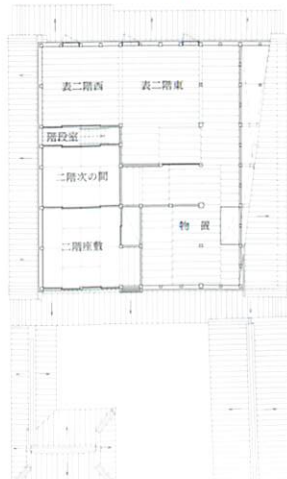


一階座敷



一階納戸

### 【資料④-B】 二階概観



二階平面 (S: 1/400) ①



二階座敷



二階表（東）

## ■ 保存修理工事の概要

黒木町では初めての学術調査に基づく本格的な保存修理工事を実施し、平成18年11月に着工、8ヶ月の工期を要し、同19年7月に竣工しました。優れた工法と地元材により建設された伝統町家は、釘跡や仕口・枘穴などの痕跡を丹念にたどり、履歴に基づき建築当初の姿に復原されました。今回、大地震や火災を想定した先進的な工法を導入し、九州では初めての防災型町家住宅の施工例となり、本工事から得られた建築データは、平成21年度から予定される黒木地区の修理・修景事業に反映されます。



### 軸組の不陸調整

建築東西の両端部は腐朽による沈下のため、ジャッキアップにより水平を回復しました。



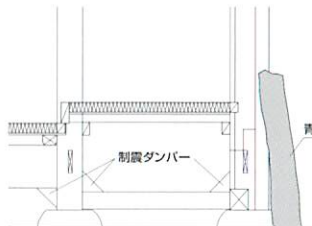
### 柱の根継ぎと構造補強

腐朽部分は根継ぎして地貫を通し、外側に補強材を通して土壁の崩落を防いでいます。



### 土壁の補修

当初の壁は極力残し、内部に木舞をえつり、配線などは埋め込み意匠を整えています。



### 側壁に青石（緑泥片岩）【断面】

町道側に沿った建物西面の腰壁部分には、青石が張られ、断面から見た立ち姿です。

## ■ 耐震診断による構造補強

老朽化した伝統家屋を「まちなみ交流館」として新たに一般公開するため、耐震診断による構造補強を施し、建物の安全性を一段と高めました。土間筋には新設の上壁、壁面は面格子、床下や梁筋には制震ダンパーを組み入れ、伝統工法とハイテク部材により耐力を確保しています。特に、新設の土壁と面格子部分は建築当初の履歴にはないため、古色を塗らず素木のままとし、当初材と後補材の明確な区別を図りました。地震ハザードマップや耐震調査結果から、黒木町は全国の市町村のなかで、最も安定した地盤のひとつにあることも判明しています。



### 構造補強壁【新設】

梁間方向に壁が少ないため、構造補強壁とし、制震ダンパーを組み込んでいます。



### 足固めと制震ダンパー

建物床下には足固めを新たに渡し、束周りに制震ダンパーを入れ構造補強しています。

## ■ 「旧松木家住宅」の歴史と建築的特徴



松木己之助商店店頭（昭和13年）



まちなみ交流館 旧松木家住宅（平成19年）

「旧松木家住宅」は、表構えを残す居蔵造の町家を代表する存在です。棟木の墨書銘から、明治13年（1880）の黒木町大火の翌14年に建設されたことが確認され、建物登記簿からは、穴見免市（～M27）、倉貞團藏（M27～）、綾戸仙助（T3～）、松木己之助（T13～）の所有履歴が判明し、店舗兼住居として最近まで使用されてきました。

町当家は、平成16年の学術調査により建築史的価値の極めて高いことが明らかとなり、平成18年に町が建物の寄贈を受け、同年7月7日付で町有形文化財（建造物）に指定しました。

今回、限界耐力計算法（\*）に基づく耐震診断と構造補強により、外壁は建築当初の中塗り仕上げ、腰壁に緑泥片岩、入口は吊上げ大戸と鉄格子を嵌めた外観に復し、平成19年10月、「まちなみ交流館 旧松木家住宅」として新たに開館しました。

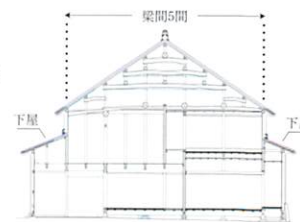
当館は、近日に予定される国選定「重要伝統的建造物群保存地区」（\*）の中心部に位置し、町並み保存や自主防災活動など住民主体のまちづくりを通じて、地域コミュニティを育む中核施設の役割を担います。

### ◆ 旧松木家住宅の建築的特徴

- 墨書銘により建築年代と建築主、大工、木挽、左官の名前が明確【資料①】
- 「居蔵造」形式の町家建築のなかで、間口及び梁間とも最大規模【資料②】
- 一階表構えは軒先に雨戸を引き通し、二重の戸締りにより最上質【資料③】
- 内部は竿縁天井をつり座敷を上下に、二階表に広大な物置を配置【資料④】

### 【資料①】 主屋棟木墨書銘（原文：縦書）

- ・ 明治十四年巳二月八日棟上 穴見要造建是
- ・ 棟梁 黒木町 熊本藤平 四楽野 馬場忠吉
- ・ 木挽 町井上甚平 口同清市
- ・ 左官 本分村 松尾彦太郎 桑原 山口宇市
- ・ 明治十三年四月十一日夜失火二付焼失 其後同巳二月是建 孫子永々譲是者也



【資料②】 梁間断面 (S: 1/400)

### \* 限界耐力計算法

平成12年6月施行の改正建築基準法から、大きな変形能力を有する軸組構法による伝統的建築物の耐震性能を適切に評価し、安全限界での耐震設計と構造補強が可能になりました。建物の架構や木材のめり込み特性を生かし、耐力と変形に関する値が、限界を超えないことを実験データに基づき証明する計算法。

### \* 重要伝統的建造物群保存地区

伝統的建築物（町家・屋敷・土蔵・寺社など）や工作物（石積み・塀・祠など）、環境物件（樹木・庭・生垣など）から構成され、歴史的風致を形成していくため市町村が保存地区を定め、その価値が特に高いものをさらに国が選定した地区。